

「ロータリーが私に与えたもの」

国際ロータリー第2640地区IM5組

ガバナー補佐 石倉 保彦 (河内長野ロータリークラブ)



今年度の上半期、私にとって次の二件に大きな収穫があったと思っています。一つは「職業奉仕」の件、もう一つは「ガバナー補佐」に関わる件です。夫々に同じ話を二度またはそれ以上聞くことで、改めてロータリー理解を深めることが出来たと今考えています。

「職業奉仕」の件とは、今年度上半期、クラブ職業奉仕委員長を担当していた関係で、角谷地区職業奉仕委員長を例会にお招きし、「職業奉仕について」の卓話を聞きました。地区の会合でも一度聞き、再度クラブで同じ趣旨のお話を聞きました。二度聞くことで私はより深く理解することが出来ました。「職業奉仕」というロータリーならではの奉仕、その意味をわからないままに、またわからないことを当然のごとく過ごしてきた今までのロータリーを、改めて反省しました。

二件目。ガバナー補佐に任命され、わからないままに関係クラブを訪問させていただきましたが、その節には大変ご協力いただき、感謝申し上げます。ガバナーからは、クラブ協議会において各クラブの良い所、他クラブにとって参考になるところを、クラブ訪問において見出し、それを報告してほしいとの依頼でした。十分に把握できたかは疑問ですが、私なりにクラブを観察させていただき、ガバナーに報告しました。そして、ガバナーと同行して担当六クラブを回り、ガバナーの今年度の方針、アドレスを六回聞かせていただきました。ガバナー補佐として、他クラブの活動、様々な課題を見聞きし、情熱的なガバナーの話を聞くことで、ロータリー理解が深まったことは、大きな私の財産となりました。

平原ガバナーは、「ロータリーを楽しもう」を提唱され、そのための手段としていろいろ考えられ、また新たな工夫がなされています。

その一つは、ガバナー補佐制度の活用と充実です。1月号の8ページに大村ガバナー補佐(IM5組)が書いていますように、平原ガバナーは私たちガバナー補佐に、役割を指示され、ロータリーを楽しもうという「仕掛け」を作られていると解釈しています。IM5組のガバナー補佐は話し合いの中で、ガバナー補佐制度の活用と充実のためには、前、現、次期のガバナー補佐が連携して経験をつみ、継承し、発展させることは、地区からクラブへの、またクラブから地区への橋渡し役であるガバナー補佐にとって、大事なことであろうと考えています。

二つ目は、地区大会において、今までに無い「ガバナー表彰」をしようと、意気込んでおられます。表彰の中身は、ユニークな、秀でた、またあっと驚くような奉仕活動、ロータリー活動を、ガバナー補佐を介してガバナーに推薦してほしいと希望されています。各クラブにおかれては積極的に、そのような奉仕活動、ロータリー活動の発掘をお願いしたいと思います。地区大会が楽しい大会になることを期待しています。

今までは、一クラブのロータリアンであり、またそれに満足していた自分であったと思います。ガバナー補佐を任命され、わからないままに半年を過ごし多くの経験をさせていただきました。残り半年足らずですが、関係クラブ並びに、ロータリーの皆様にはご協力いただき、次年度に引き継ぐことができれば望外の幸せであります。

(RI第2640地区マンスリーレター・2008年2月号より)